



THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI CHARTERED 2006



茨城ワイズメンズクラブ
2019年度~2020年度
8月報 Vor.132

強調月間テーマ
評価

国際会長主題： より良い明日のために今日を築く
アジア太平洋地域会長主題： Action
東日本区理事主題： 勇気ある変革、愛のある行動
関東東部部長方針： “紡ぐ”ワイズのこころ
茨城ワイズ会長主題： 「みんな～、リーダーになろうよ～」

<8月例会プログラム>

と き:2019年8月2日(金)
19:00~21:00

ところ:茨城YMCA会館新館3階

司会:熊谷 光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

ワイズソング:

ワイズ信条:

- 1、自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1、青少年のために YMCA に尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう
- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとうろ
- 1、会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・食前感謝:

関東東部部長訪問

サイクリングイベント運営について

ハッピーバースデー&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:

茨城YMCA報告:大澤 篤人

閉会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

★巻頭言★ ILO 総会で「仕事の世界における暴力とハラスメントを禁止する」条約が採択される 金子かずお

今年はILO(国際労働機関)創立100周年にあたるそうです。

その記念すべき総会で職場での暴力やハラスメントを全面的に禁止する、初めての国際条約が採択されました。

今後、各国が条約を批准し、職場での暴力やハラスメントの根絶につながるか注目されると思います。

ILOは、セクハラや性暴力を告発する「#MeToo」運動が世界的に広がっていることを背景に、職場での暴力やハラスメントを禁止する新たな国際条約について去年から本格的に議論を始め、ジュネーブで6月に開いた総会で加盟国や労働組合、それに経営者団体が参加して採決を行いました。採決では、加盟国の政府に2票、労働組合と経営者団体にそれぞれ1票ずつ投票権が割り当てられ、結果、条約は賛成 439、反対7、棄権 30と、圧倒的多数の支持を得て、採択されました。日本から参加した政府と労働組合の連合は支持に回った一方で、経済界の経団連は棄権しました。

今後、ILOの187の加盟国はそれぞれ条約を批准するか検討し、批准した国は、条約に沿った国内法を整備していくことが求められていて、職場での暴力やハラスメントの根絶につながるか注目されます。ILOが、職場での暴力やハラスメントを全面的に禁止する初めての国際条約を採択した背景には、セクハラや性暴力を告発する「#MeToo」が世界的に広がり、女性に限らずすべての人に対する暴力やハラスメントを許さない風潮が高まったことがあります。

条約の制定を目指す話し合いの中で、ヨーロッパなどすでに国内法を整備が整っている国は条約を支持する一方、アメリカやロシア、それに経営者団体などは慎重な姿勢を示していました。日本政府を代表して参加した厚生労働省の麻田千穂子国際労働交渉官は、「仕事の世界での暴力やハラスメントについて国際的な労働基準が初めてできた意義はとても大きい。国内政策でも今、私たちは職場のハラスメントをなくそうと一生懸命取り組んでいるところで、まさに方向が一致している」と述べ、条約の採択を歓迎しました。

一方で、日本が条約を批准するかどうかについては、「条約の採択に賛成するかどうかということとは次元の違う話で、国内法と条約の求めるものの整合性について、さらに検討していかなければならない」と述べ、今後、関係する省庁とともに慎重に議論を進めていく考えを示しました。

◆ワイズの目的は『YMCAの活動を支援する』です。その1つとしてYMCA維持会員になっていただいております。維持会員登録をされていない方は、大澤までお申し出下さい。YMCAは会員団体であり、YMCAは会員に支えられ地域に根ざした活動を展開しております。維持会員とは、YMCAの使命に賛同し、その運動に主体的に参与し、YMCAの維持、発展に寄与することを願う会員です。

今月の聖句

そのとき、弟子たちに言われた。
「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、
収穫の主は、収穫のために働き手を送って
くださるよう祈りなさい」

(マタイの福音書 9章 37-38節)

【茨城ワイズ 7月例会報告】

7月例会は、ワイズメン4名ならびにゲスト1名をお招きして開催いたしました。先月に引き続き、新年度の運営について、また10月に予定されているサイクリングイベントについて協議いたしました。

◎新年度の運営について

25周年イベントを通じて、若年層(20代-40代)で茨城YMCAをサポートしたいという人が潜在的に多くおられることを改めて認識し、彼らをワイズへと誘う道筋を作るために、熊谷会長より以下の提案がなされました。

・例会の運営について

- ① 食事代は500円(ワンコイン)とする
- ② 食事代は回ってきたスマイルポットにスマイルと一緒に入れる
- ③ スマイルポットには、できるだけ硬貨のみ入れる(会長が事前に両替コインを用意)

会員増強に関する先月の提言と含めて、7月末の役員会でも引き続き協議していきたいと考えております。

◎サイクリングイベントについて

10月のサイクリングイベントについて、協賛やイベントの立て付けなどに関し協議いたしました。

7月例会報告

出席者:会員4名(熊谷、稲本、宮田、大澤)、メネット:0名、スタッフ:0名、リーダー:0名、ゲスト:1名、出席総数数:5名、在籍者会員数9名、会員出席率:44%

<写真:新会長熊谷さんのお誕生日(24日)

/夏野菜カレーの食事>



【茨城ワイズ 会計・事務報告】

ワイズメンのみなさまにおかれましては、引き続き会費の前納について、ご協力を賜ればと思います。

6-7月会計報告

6月8日時点繰り越し	140,813
7月例会食事収入	2,000
7月スマイル	1,364
会費収入	12,000
25周年ラッフルお菓子	▲2,418
食事材料費	▲2,000
7月8日残高	151,759

【茨城YMCA 報告】 大澤 篤人

7月報告

- 1日 早天祈祷会
- 1日 主任会
- 5-6日 発達支援担当者会
- 5-7日 野尻キャンプ場リーダートレーニング
- 9日 牛久センター運営委員会
- 11日 台湾学生ボランティア受け入れプログ ICCPJ 開始
- 12日 職員礼拝・職員会
- 13日 障がい児者自立支援活動「たんぼぼクラブ」
- 15日 野尻湖キャンプ顔合わせ会
- 20日 幼保園体験入園
- 22日 各児童クラブサマースクール開始
- 26-30日 野尻キャンプ
- 27-28日 うしくかっぱ祭り出店

8月予定

- 3日 アドベンチャーキャンプ顔合わせ会
- 6日 主任会
- 5-6日 サービス管理責任者研修
- 8-9日 二葉こども園白組キャンプ
- 10日 キャンプエルマー準備会
- 11-12日 キャンプエルマー
- 11日 ICCPJ 最終日
- 12-16日 お盆休館
- 21-23日 アドベンチャーキャンプ
- 24-25日 まつりつくば出店
- 31日 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」

【茨城YMCA25周年イベント報告】

6月22日～23日にかけて、茨城YMCA25周年記念イベントとして、「茨城 YMCA 25th Anniversary ありがとうパーティー」「リーダーズキャンプ」が開催されました。

参加者のアンケートでも YMCA へのさまざまな貴重な意見が寄せられました。なかでも、YMCA スタッフの大澤さんより、それぞれのイベントの詳細な報告をいただきましたので、以下に共有させていただきます。

◆「茨城 YMCA 25th Anniversary ありがとうパーティー」

25周年記念総会に続く会員の集いとして、大々的にお祝いの時間をもち、なるべくたくさんの方に来てもらおうと考え行うこととなった。

なるべく来場しやすいよう無料とするなど、対応を検討した結果、例年の総会参加者数20-30名に比べると大変多い、150名程度の来場者を迎える非常に大きな会となった。

総会では40脚用意したパイプ椅子がほとんど埋まり、普段総会に参加したことのないリーダーOBの参加などもみられた。



総会後の立食パーティーでは、大きくは4つのプログラムを用意した。①リーダーOBのAさんによる新曲紹介、②茨城YMCA活動紹介、③Yストーリー紹介、④ブランドステートメント紹介である。

Aさんの新曲は「あしあとマップ」という歌、個人的な感想になるが大変いい歌で、今後茨城YMCAを代表する曲となっていくことであろう。

活動紹介は、例年行っている事業を余すことなくお伝えしたいという気持ちがあり、全活動の写真をスライドしながら一つ一つを紹介していったが、かかる時間も長くあきってしまうため、今回は3点に絞って紹介することにした。今年度全国YMCAで進められた事業領域化によって定義された4つの事業領域から、茨城YMCAがより力を注いでいる3つ「子育てと子育て」「ユースエンパワーメント」「社会に貢献」を紹介し、それぞれの事業領域で注目してほしいプログラムをピックアップしてお

伝えた。紹介者は全員25歳の者にし、若者がこれからも活躍していくことを示した。

Yストーリー紹介は3名の方をお願いした。お子様をつぼみクラスからお預けになっていた保護者のOさん、リーダーOBで現在はJICAで働いているKさん、小学生のころからわいっこクラブやキャンプに参加し、現在高校生になったメンバーのFさんの3名である。それぞれ心打たれる素晴らしいYストーリーを聞くことができた。

その後新曲をみんなで歌い、5月に採用したばかりのスタッフ2名にブランドステートメントを読んでもらった。少し長い文章だが、YMCAのブランドコンセプトに込めた思いが詰まっている文章で、是非一度は見聞かしてほしいと思っていたものだった。



立食パーティー後は記念講演、その裏で行われるナースリーがあった。私は残念ながらその次に行われるラッフル抽選会の準備のためにどちらにもかかわることができなかったが、記念講演の講師はキリスト新聞社松谷社長によるものであった。後日彼のFacebookには「期待していなかったが非常にいいお話だった、と語って著書を購入されたノンクリスチャンの保護者がおられた」とのことであったので、さぞ素晴らしいお話であったことと想像する。詳細はお話を聞かれたであろう熊谷会長から聞いてみたい。

最後に、ラッフル抽選会を行った。当初は立食パーティーだけで帰ってもらうことなく最後までいてほしい、できるだけ参加してほしいとの思いで始まったもので、20-30程度の賞があればいいのではといていたが、多くの方のご支援により70以上の賞品をご寄付いただいた。ワイズからの寄付もあり、心より感謝いたします。

少なく短いラッフル抽選会のため、チャリティーランでは1000程度印刷するラッフル抽選券も400枚しか印刷しなかったのだが、見事にすべて配布、30分と予定していた時間内に終わるはずもなく、終了時刻は30分以上押ししてしまった。最初は宮田総主事、途中から熊谷会長に抽選していただいたが、想像以上に盛り上がり、目玉賞品のディズニースーツ親子ペアチケットは

すべてリーダーに当たってしまうという熊谷会長のくじ運で落ちが付いたラッフル抽選会であった。

プログラムの他にも、ホールだけでは足りないため会場となった本館 1F の壁一面に掲示された写真や記念誌のために集められたありがとうメッセージ、スライドや「あしあとマップ」の歌詞等がどこにいてもみられるようにモニターとプロジェクター 2 か所に同じスライドや画像を映したこと、多彩な食事を飽かさせないよう 2 つのお店から 160 人分の食事を手配してくれたこと、素敵な横断幕を書いてくれた書道の雅石講師、雨で外に出られなくても狭い会場をすこしでも広く使えるために考えてくれた会場、少ない駐車場を職員の車で埋めてしまわない努力、短い期間で完成した 25 周年記念誌、長く使ってもらえることや普段使いで目に付くなど難しい条件をクリアして作成された記念品のティッシュカバー、茨城 YMCA では画期的なクレジットカード払いでできる 25 周年記念募金、などなど…。本当に多くのリーダーの努力で進められたありがとうパーティーであった。

もちろん、会の成功は準備をした職員によるものではなく、理事や役員、参加してくれた多くの会員の方々によるものである。会を通して、茨城 YMCA の無限の可能性を感じられた時でもあった。

最後に個人的な感想だが、来年以降も同様の期待をされることが今から恐ろしい。しかし、25 周年じゃなければできないことであったか、といわれればそんなことはなく、毎年味わいたい素晴らしい会であったのは否めない。きっと来年も行うことになるであろう。その時は協力していただきたい。

◆「リーダーズキャンプ」

リーダーズキャンプはありがとうパーティーと同日の 6 月 22 日 17 時半の BBQ からスタートした。久しぶりの



面々にも合うことができ、楽しい時間となった。

BBQ の後は現役リーダーと数名 OB への無茶ぶりが混ざったゲーム大会。こちらは大変久しぶりに、メンバー体験ができたゲーム大会であった。その後グループに分かれてリーダーの魅力を見出すためのディス



カッション。みんななぜリーダーをしていたのか、何が楽しかったのか、自分たちの経験や感情からリーダーの魅力を話した。私のグループにはおやじの会からの参加者としてメンバーの保護者がおられ、「リーダーをやってみよう」という意見が出た。それをきいて、学生時代に YMCA に出会えたことは本当に幸運だったと改めて実感できた。

ゲーム大会後は各自自由時間。ゴールデンタイムは夜明けまで続いたが、詳細な報告は割愛する。

翌日は日曜日であった。主日礼拝のときを持ち、片山ワイズにメッセージをいただいた。放蕩息子のたとえを用いて、YMCA と自身の過去を振り返るお話は非常に興味深いものがあった。

朝食の後は雨天の可能性のため大曾根児童館に移動、体を使って遊ぶ組と、ひたすらキャンプソングを歌う組に分かれて時間を過ごした。私は大半の時間を歌う組で過ごしたが、歌幕の中には、古すぎてわからない曲と最近過ぎてわからない曲があり、時の流れを感じた。私が現役時代によく歌っていたキャンプソングも一部もう歌われなくなっていたものがあり、それらを久しぶりに歌ってみる時間が大変いとおしかった。

もちろん、新曲「あしあとマップ」も何度も歌い覚えた。作曲者自らによる、込めた想いの紹介も、更にこの歌を好きにさせた。

その後昼食を食べながら、もう一度ディスカッション。先日ほど活発な意見は出なかったが、食事のひと時も YMCA を思う時間となった。

全体を通して、こんな時間がもっとあればいいのに、というのが一番の感想であった。毎年恒例となることを今から祈っている。初日のゲーム大会の最後に、スタッフ和田から「歴代のメンバーOB、リーダーOBを呼んだ大思い出会を開催する」という新しい目標ができたことが告げられた。きっと彼なら実現してくれるはずと信じている。こうして文字にしてワイズの皆様に発表したらきっと引き返せないであろう。彼に会ったら「大思い出会はいつやるの？楽しみにだね」と定期的に声をかけて実施を後押ししてほしい。

リーダーたちからも、「茨城 YMCA は帰ってこられる



場所だ」という言葉がたくさん聞かれたが、今は帰ってこられる機会や活躍できる舞台が足りていないのだろう。今後そうした舞台や機会が増えることを切に願う。

準備や実行は大変な努力があったことと思う。私は今回純然たる参加者であり、準備にはまったく参加しなかった。企画立案、主催となった野外事業運営委員会や、役割を与えられたリーダーOB、日々の業務と並行して様々な準備を行ったであろう職員、多くの方々にお声をかけて参加者を募られた一人ひとり、そして参加してくれたみんなで作上げた素晴らしいキャンプであった。

次回も楽しみにしている。



【編集後記】

7月は記録的とも言える肌寒い夏となりました。毎年の猛暑も困ったものですが、暑さが足りないとそれはそれで物足りなく感じるもので、。

さてさて茨城YMCA、茨城ワイズではいまだに6月の25周年イベントの余韻が残っております。スタッフの方々、そしてリーダーOBOGの方々がYMCAに寄せる思いを改めて感じる機会となりました。茨城ワイズは昨年度退会者が増え、今年度は少人数でのスタートとなりましたが、必ずや将来には、YMCAへの熱い思いを持った人たちが繋がり続ける場として勢いを盛り返したいと考えております。また、そのような人たちの受け皿となり得るワイズとして変革していかねばならないとも考えております。

8月は例年通りの暑さが戻ってくることになりそうです。みなさまお身体にお気をつけて、そして秋のイベントを充実したものとしていきましょう！

< 写真：京都出張のおり、先斗町の小料理屋さんに足を踏み入れました。川床は海外からのお客さまでいっぱい。>



今回のリーダーズキャンプは、YMCAに関わってきたリーダーOBOGを中心に、YMCAに思いを寄せる人たちが集まるこれ以上ない良い機会となったと思います。

ワイズメンズクラブとしても、この輪に参画していく第一歩となりました。ワイズを含め形はいろいろとあるかと思いますが、これからもこの輪を大切に広げていきたいものです。準備に携わってくださった方々、本当にありがとうございました。